



かわい

令和3年5月31日



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

一人一人が力強く光り、集団でも美しく光る 副校長 池田 千穂

今年もホタルの季節がやってきます。私は幸運なことに赴任してから毎年、アメニティのホタルを見ています。今年も楽しみです。ネイチャーナイトの夜も晴れて、たくさんのホタルが見られるといいです。

先日、今年度1回目の学校運営協議会が開催されました。そこで、自然に恵まれた環境は本校の素晴らしい特長だという話がでました。私も常々そう思っています。そのせいか、かわいっ子は生き物と仲良しです。カナヘビやトカゲを捕まえて見せてくれる子が何人もいます。以前担任していたクラスには、土や虫にさわれない、さわったことのない子がいて驚いたことがあります。下手をすると1日中、PCやテレビ、スマホを見て過ごしてしまうという時代です。自然と触れ合う大切さを感じずにはられません。

その恵まれた自然の中でも、ホタルが見られることが1番に挙げられる特長だと思います。

私はホタルの生態について、驚いたことが二つあります。一つは、ホタルの成虫は水しか飲まないことです。幼虫の時に食べて貯めた栄養分だけで生きているそうです。成虫はたった10日前後でその命を終えます。その間に精一杯に光ってパートナーを見つけます。そのエネルギーを幼虫のうちに蓄えていることとなります。成虫になってから精一杯光り輝くためには、幼虫の時に栄養分を蓄えることがとても大切な事なのです。子ども達も、食べ物の栄養だけではなく、知識、技術や道徳心など、体にも心や脳にも今、栄養を蓄えている大切な時期なのではないかと思います。



二つ目は、その光の点滅間隔です。光る間隔は地域によって違いがあるそうです。関西では2秒に1回、関東では4秒に1回点滅するそうです。不思議なのは、関西のホタルを関東に連れて来て関東のホタルの中に放すと、他の関東のホタルと同じように4秒に1回光るそうです。つまりホタルは種類で光る間隔が違うのではなく、住む地域で違うことがわかります。そしてどこの地域でもその間隔をそろえ、同時に光るのだそうです。無数のホタルが群れになって光るところでは、たくさんのホタル達が同時に光るため、大きな光の玉のように見えるそうです。

研究者はなぜ同じ間隔で光るのか次のように考えました。指揮者のようなホタルがいて、その指揮者ホタルにみんなが合わせるのではないかと。ところが、調べてもそのような指揮者はどこにもいませんでした。

ではなぜ、光がそろえるのか。初めは勝手にばらばらな間隔で点滅しているのですが、周囲のホタルとコミュニケーションをとりつつ、それぞれが点滅の間隔を変えていくうちに、ある瞬間、すべての点滅が一緒になるのだそうです。「ちょっと、私速いかな。」「お隣に合わせてみよう。」みたいなコミュニケーションがお尻の光で行われているということでしょうか。

本校も、コミュニケーションをとりながら、つながっていくそんな経験をたくさんさせていきたいと取り組んでいます。対面の会話や接触が難しく例年通りとはいかない「人とつながりにくい」時です。ホタルが光だけで点滅を合わせてつながるように、かわいっ子達が友だちや他学年の仲間とまた地域の方とつながっていくように、私たちは様々な場面で活動を工夫しています。社会科では見学ができなくても電話でのインタビューやTV会議でお話を伺いました。医療従事者の方に感謝の気持ちをこめて全校一人一人カードを書いて送りました。たてわり活動や保育園交流ほか他者とのコミュニケーションが中心となる活動も、制限の中工夫して行ってきました。

そして地域の皆様や保護者の皆様も学校とのつながりをいつも心に留めて大切にしてくださっています。コロナ禍において、それを感じるが多々ございました。心より感謝申し上げます。

これからも子ども達の「個」の輝きを大切に育てながら、集団の中で人とつながることができる力、それを大事にする気持ちを育てていきたいと思っています。ホタルのように、かわいっ子一人一人が力強く光輝きながら、集団でも大きく光輝いていけるように教職員一同努めてまいります。皆様方のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。